

横須賀市 津波ハザードマップ

本庁地区

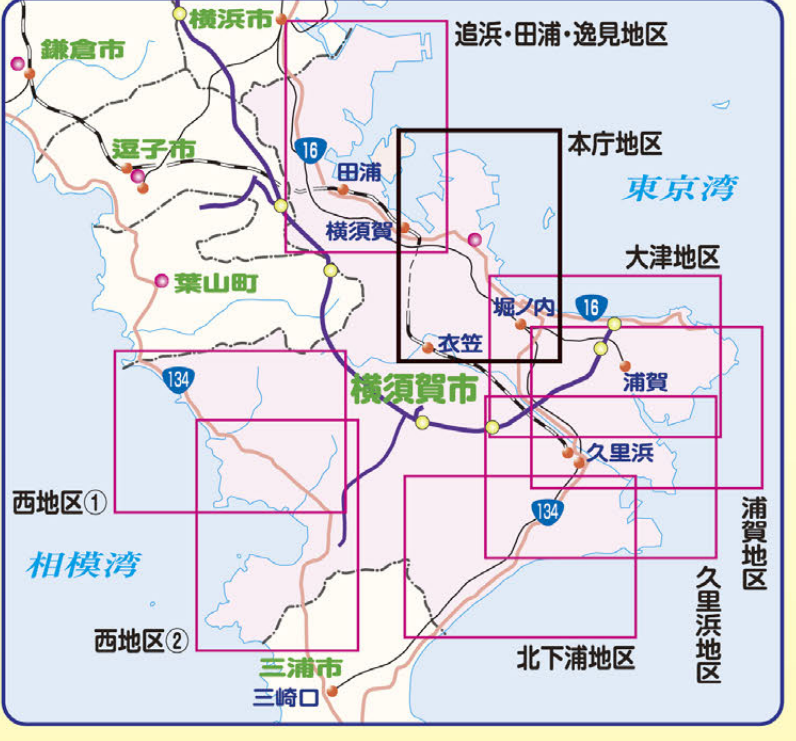
地震発生

地震がおきたらすぐ
高い所へ!

津波から身をまもるために

- ◎強い揺れや、長い周期の揺れを感じたら津波に注意
警報・注意報を待たずに、海岸付近を離れて、直ちに高い所へ避難しましょう。
- ◎津波警報・注意報がでたら
地震を感じなくても油断は禁物。海岸付近を離れて高い所へ避難しましょう。
- ◎正しい情報の入手
安全な場所でテレビやラジオ、防災行政無線等からの情報を入手しましょう。

実際の津波は、
浸水予測よりも大きくなる可能性があります。

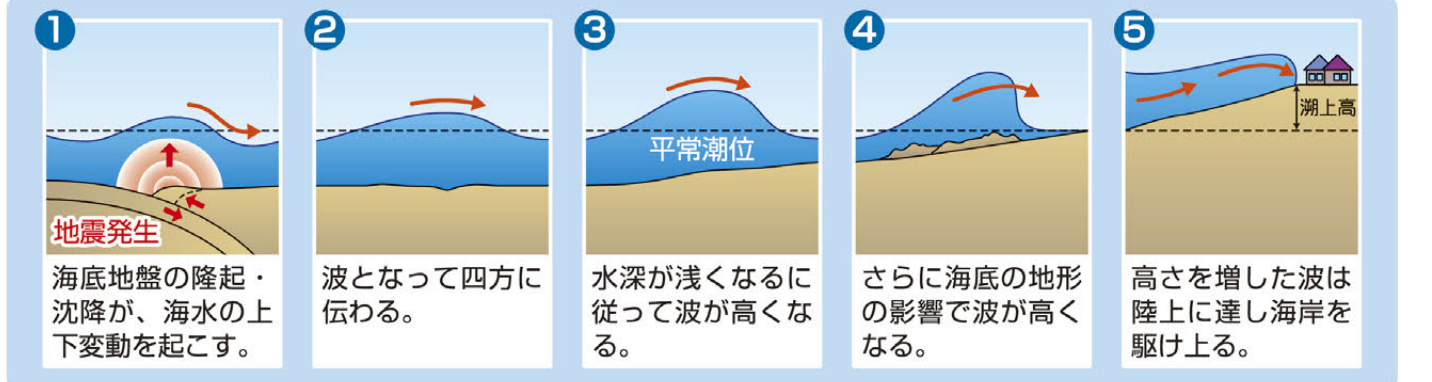


横須賀市 令和4年作成

津波とは？

津波の「津」とは、船着場や渡し場を示す港を意味します。すなわち、「津波」とは津(港)に押し寄せる、非常に大きな海水の塊です。津波は、海底で発生する地震に伴う海底地盤の隆起・沈降や海底における地滑りなどにより、その周辺の海水が上下に変動することによって引き起こされるものです。発生した海水面の動き(上下動)が大規模なものであれば、沿岸に達すると凄まじい破壊力の大津波となります。

また、津波は地震による断層運動や海底での地滑りだけではなく、海底火山の噴火などによっても引き起こされることがあります。



近地津波と遠地津波

- 近地津波
日本沿岸を震源とする地震等により発生する津波
(例) 太平洋側: 2011年(平成23年)東日本大震災、東海地震、東南海・南海地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震など
日本海側: 1983年(昭和58年)日本海中部地震、1993年(平成5年)北海道南西沖地震など
- 遠地津波
遠方を震源とする地震等により発生する津波
(例) 1952年カムチャッカ地震、1960年チリ地震、2010年チリ中部沿岸を震源とする地震など



海外の地震で発生した津波のうち、日本およびその周辺沿岸に影響を与えた主な津波(マグニチュード、日本からの距離)

津波ハザードマップの使い方

大きな被害をもたらす災害から、人命・財産を守るためには日頃の準備が必要です。このマップを使って家族等で話し合い、普段から目につきやすい場所に保管して防災意識の向上を心がけましょう。

- 1 目標物、高台の確認**
自宅、学校、職場など、付近の浸水の状況を確認しましょう。次に、付近の避難目標となる高台を確認しましょう。
- 2 避難経路の設定**
浸水想定区域や危険な箇所を避けて避難経路を設定し、書き込みましょう。直近の道だけでなく、複数の道を考えておくことが重要です。
- 3 避難経路の確認**
実際に避難経路を歩いてみて、危険な箇所、階段、夜停電しても通れるか、などを家族や友人等と一緒に確認しておきましょう。危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。

災害時の情報収集手段

防災情報メール 携帯電話・スマートフォンなどに防災行政無線の放送内容をメールで送信します。 登録方法 下記アドレスに、空メール(本文に何も入力しないメール)を送信 bousai-yokosuka@raidan.ktaiwork.jp	防災行政無線 地震などの災害情報、気象情報などを放送 電話で防災行政無線の放送内容をご案内 防災情報テレホンガイド TEL: 046-822-3900 市ホームページ・LINE・ツイッター 市公式LINE・ツイッターでは防災行政無線の内容を通知します。 QRコード: 横須賀市公式LINE, 横須賀市公式ツイッター テレビ(データ放送) リモコンの「d」ボタンから「天気」が「災害情報」を選択(株)ジェイコム湘南・神奈川(デジタル11チャンネル)でも放送 ラジオ(FMブルー湘南)78.5MHz 大規模災害時は地域に特化した防災情報を放送インターネットでも聞くことができます。
---	---

この津波ハザードマップは、津波に対する正しい知識と、自分の生活する場所の特性を理解していただき、いざという時に、迅速適切な避難行動を身に付けていただくために作成したものです。

お問い合わせ 横須賀市危機管理課 TEL: 046-822-9708 / FAX: 046-827-3151 e-mail: ps-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

この横須賀市津波ハザードマップは、60,000部製作し、1部あたりの印刷費は99円です。

津波の特徴

- 繰り返し襲ってくる
津波は二度、三度と繰り返しやってきます。必ずしも第1波が最大とは限りません。津波注意報や津波警報が解除されるまで海に近付いてはいけません。
- 深海ではジェット機並みの猛スピード
津波の速さは、海の深さに関係し、深海5000mでは、ジェット機並みの速さになります。水深が浅くなるほど速度は弱まりますが、水深10mの海岸近くでも時速36km前後あります。



地形による津波の変化

津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。さらに、津波が陸地を駆け上がる(遡上)することもあります。岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので、特に注意が必要です。津波は反射を繰り返すことで、何回も押し寄せたり、複数の波が重なって予想された高さよりも高い波となることもあります。また、遠浅の地形のほうが高くなることもあります。

恐るべき津波の破壊力

津波は、海底地盤の上下による海水全体の動きのため、海底から海面までの全ての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せ、その破壊力は凄まじいものとなります。また、引き波も長時間にわたり引き続けるために、家屋などが一気に海中へと引き込まれてしまいます。

津波の速さは、海の深さに関係し、深海5000mでは、ジェット機並みの速さになります。水深が浅くなるほど速度は弱まりますが、水深10mの海岸近くでも時速36km前後あります。

避難の心得

- 津波の発生を察知する
 - 1) 地震の発生
・震度4以上の地震が発生した時
・ゆっくりとした揺れが長く続く時
 - 2) 海面の異変
・急な引き潮が起きた時
 - 3) 津波警報の発表
・テレビやラジオ、インターネットで津波警報などが発表された時
 - 4) 避難の呼びかけ
・防災行政無線(サイレンが鳴ります)や防災メールの呼びかけがあった時

気づいたら
すぐに避難!

一刻も早く高い所へ逃げる!
津波から避難する時は、速くへ逃げるよりも一刻も早く高い所へ逃げましょう。

原則として車は使わない 車での避難は、地震による道路等の損傷や液状化などの交通障害の発生により避難そのものが不可能となる可能性があります。また、徒歩による避難者の円滑かつ安全な避難の妨げとなる恐れがあります。	引き波が無くても津波は来る 地震の起こり方によっては引き波が無いこともあります。引き波が無くても津波が到達することがありますので注意しましょう。	津波発生の場合には、ただちに高い所に避難することが原則ですが、緊急的な避難場所として「津波避難ビル」もあります。特に津波浸水区域内にある「広域避難地」や「震災時避難所」には避難しないようにしましょう。
--	--	--

こんな時の対応は？

- 海岸にいた時
・避難指示を待つことなく、ただちに高台や鉄筋コンクリートの建物の上階へ避難しましょう。
・津波は繰り返し襲ってくるので、いったん波が引いても、津波注意報や津波警報が解除されるまでは絶対に戻ってはいけません。
・海水浴中の場合は、監視員等の指示に従って避難しましょう。
- 川のそばにいた時
・津波は川を遡上することがあり、上流側に避難しても津波は押し寄せてきます。川に背を向けてすばやく避難しましょう。

津波情報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後約3分で気象庁が「大津波警報」「津波警報」または「津波注意報」を発表します。その後、「予想される津波の高さ」「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

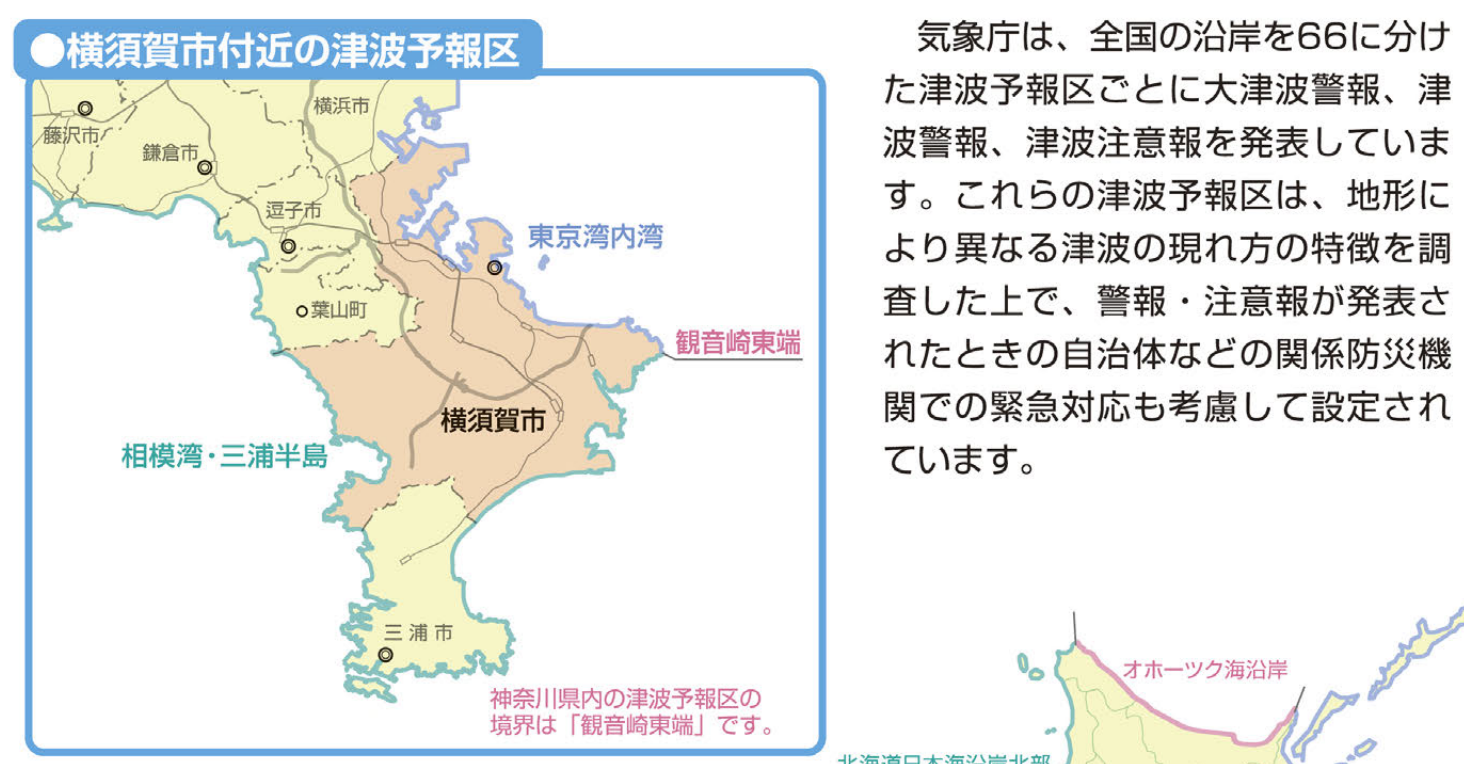
●津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

予想される津波の高さ 数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現	とるべき行動	想定される被害
10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。 (10mを超える津波により木造家屋が流失)
10m (5m<高さ≤10m)	巨大	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。 豊頃町提供(2003年)
5m (3m<高さ≤5m)	高い	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったたり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。 出典: 気象庁資料
3m (1m<高さ≤3m)	高い		
津波警報			
津波注意報			
1m (20cm<高さ≤1m)	(表記しない)		

巨大地震発生!
マグニチュード8を超える巨大地震の場合、正確な地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における最大級の津波を想定して、警報を発表します。これにより、津波の高さを小さく予想することを防ぎます。この時、最初の津波警報では、「巨大」「高い」という言葉で発表して非常事態であることを伝えます。

高さは5段階で発表
正確な地震の規模がわかった場合、予想される津波の高さを1m、3m、5m、10m、10m超の5段階で発表します。

津波予報区



想定する地震と震源域

平成27年に神奈川県は、沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される9つの地震を対象として津波浸水予測を見直し、「津波浸水予測図」を公表しました。更に、県の沿岸における「津波高さ」又は「浸水域」が最大となる5つの地震の津波浸水予測図を基に、「浸水域」と「浸水深」が最大になるように重ね合わせた図面=「津波浸水想定図」を作成しました。このハザードマップは、県の津波浸水想定図を基に作成しました。「津波浸水予測図」や「津波浸水想定図」に関しては、神奈川県のホームページで確認できます。

なお、神奈川県の津波浸水想定は、県が一定の条件に従って予測を行った結果であり、津波の浸水が予想される区域を示したもので、津波による災害の発生や被害の範囲を決定するものではありません(浸水域の範囲外でも、津波の浸水が発生する場合があります)。

- 1 相模トラフ沿いの海溝型地震(西側モデル)
- 2 相模トラフ沿いの海溝型地震(中央モデル)
- 3 元禄関東地震タイプ
- 4 元禄関東地震タイプと国府津-松田断層帯地震の運動地震
- 5 慶長型地震

